

大学等における価値創造人材育成拠点の形成

令和4年度予算額（案） 87百万円
（前年度予算額 97百万円）

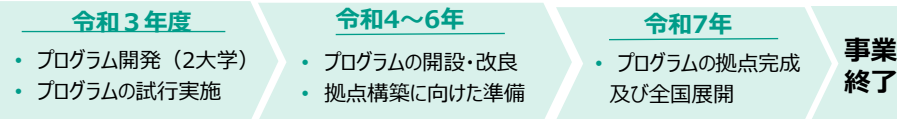


背景・課題

- Society5.0の到来や新型コロナウイルス感染症の世界的拡大など変化が激しく、不確実性の高まる時代においては、企業も個人も変化に柔軟に対応し、不断に能力を向上させていくことが必要。
- 特に、個人においては自由に個性を發揮しながら付加価値の高い仕事を行うことが必要とされており、機械やAIでは代替できない、創造性・感性・デザイン性・企画力など、新たな価値創造を行う能力を有した人材が産業界から求められている。
- 令和3年度に開発した教育プログラムを運用実施していくことに加えて、プログラムの改良を重ね、最終的な価値創造人材育成拠点の形成に向けた準備を進める。
- また、プログラムの受講生、修了生がビジネスの場で活躍できる方策について経産省と連携し検討する。

〈参考〉成長戦略フォローアップ（令和3年6月閣議決定）（抜粋）
2021年度より「大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業」及び「大企業等人材による新規事業創造促進事業」を実施し、個人の内面や顧客ニーズに基づく創造的な発想をビジネスにつなぐ教育プログラムを開発するとともに、実践する大学等の拠点を早急に構築するため、集中的かつ中長期にわたる支援を行う。また、かかる教育プログラムの在校生や卒業生をはじめ、個々人の創造性をビジネスの現場で発揮するための環境整備について検討する。

プログラム事業実施計画



事業概要

令和3年度に開発・試行実施した価値創造人材育成プログラムの本格実施

1. 開発・試行実施したプログラムの本格実施に関する支援。
(参考：プログラムに求める要素（例）)
 - ①デザイン思考・アート思考の育成
 - ②①に限らず有効な分野横断型学習
 - ③自己の視野を所属企業の枠に閉じない産学連携したPBLの実施
 - ④最新のIT機器の活用
 - ⑤学会発表等アウトプット機会の提供
 - ⑥アーカイピングの工夫
 - ⑦委託期間終了後の事業実施の検討 等
2. 本事業の最終目標である拠点構築に向けて企業や大学等に向けた広報・周知。
3. 経産省と連携して、育成した人材のビジネスにおける活躍の場の検討・提供。

開発予定のプログラムイメージ

<東京工業大学 Technology Creatives Program>

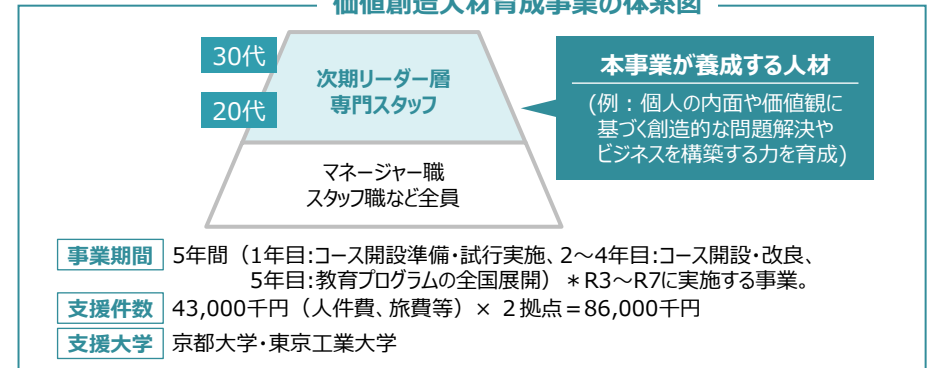
目的：エンジニアとデザイナーが価値創造スキルを身に付け、先端技術を活用した社会共創を行う。また、育成した人材の人材プールを構築し、修了生のみならず社会において価値創造人材の育成を目指す。

修得能力：課題発見・解決能力、リーダーシップ等を身に付けた上で、テクノロジー、アート・デザイン、ビジネスに関する分野横断的な能力・スキルを修得する。

カリキュラムの特徴：連携体制としてテクノロジー、アート・デザイン、ビジネスに特化した大学との連携体制構築や、外資、コンサルファーム、デザイン系企業と連携しながらのPBLの実施。

修了要件：180時間以上の履修（6カ月間程度）

価値創造人材育成事業の体系図



アウトプット（活動目標）

- ・ 事業における実施大学数・連携企業数
- ・ 開発したプログラムの社会人受講者数
- ・ プログラム修了者数
- ・ 修了者のプログラム満足度 80%以上

アウトカム（成果目標）

- ・ 連携企業の事業満足度 100%
- ・ アート思考を取り入れたプログラムを実施する大学数の増加
- ・ 創造力を重視する企業の増加

インパクト（国民・社会への影響）

- ・ 既存の価値観や枠組みに捕らわれない創造力のある人材育成の強化
- ・ 付加価値を高めた商品開発や新しい社会の在り方の創出
- ・ 生産性の向上、国際競争力の確保